

あけましておめでとうございます。今年もよろしくお祈りします。
新しい年こそ災害のない良い年になりますように…そんな気持ちでいっぱいです。

俳句はうさおさん、健さんから投句いただきました。
それではうさおさんの句から。

病葉に朽ち木の骨の刺さるよう

病葉…は俳句では夏の季語なのです。そこで
*朽ち枝や枯葉に骨の刺さるよう ではどうでしょうか

傘もなく駅まで濡れる冬時雨

時雨はそれだけで冬の季語なので冬時雨と言わなくても
時雨だけで良いと思います。
*しぐるるや駅への道を皆走る

闇迫り驚きて見る腕時計

夕闇は携帯で時確かめり

闇迫り、夕闇…で冬をあらわすのには少し無理があるかも・・・
短日という冬の季語があるのでそれを使うとよいのでは。
*短日や思わず腕の時計見る

枯れすすき怖いぞ犬を先に立て

この句は面白くて良いですね。

暦ほど馴染まぬ今朝の暖かさ

*暖冬に馴染まぬ暦めくる朝

枯れ枝にカラスの埴宙に浮き

これも面白いです。
*枯枝や鴉の埴宙に浮く

正月に犬足取りも軽やかに

*正月や犬も足取り軽やかに

群青を背に聳え立つ枯れ櫓

この句良いですね。風景が浮かびます。

続いて健さんの句です。

冬晴や富士見える日は富士を見て

無理のない言葉でさらりと詠んで、しかも風景が浮かぶとても良い句だと思います。

短日やひとり入る湯を沸かしけり

これも良い句です。季語とひとり入る湯の取り合わせがすばらしい。

嘴の太きカラスや冬ざるる

この句も季語の冬ざれとカラスの組み合わせが見事です。

十七文字の抒情詩

ゆうこ

鯛焼きの湯気ごと包み手渡さる

う～ん、脱帽で～す。こんな日常の一瞬を俳句に出来るようになれば
たいしたものです

ニコライの丸屋根蒼き寒の月

寒の月という季語で蒼はわかってもらいましょう。

*ニコライの丸屋根に添ふ寒の月

短日のトロッコ道を帰り来し

*短日やトロッコ道を帰り来し

玄関のブザー壊れし十二月

*玄関のブザー壊れて十二月

空き部屋に書物を移し北塞ぐ

*北塞ぐ空き部屋の本増へにけり

失せ物の出てくる事も年の暮れ

*失せ物の不意に見つかり年暮る

吹き抜けにどっしりと立つ聖樹かな

*どっしりと聳える街の聖樹かな

落葉踏む我が足音に振り返り

*落葉踏む足音ついて来るやうな

着ぶくれて本音隠していたりけり

面白い句です。いいですね～ *着ぶくれて本音を隠す人群れる

北風にムクの「叫び」聞くやうな

これも面白いです。ムクの「叫び」が浮かびます

遠富士の影を濃くせり冬茜

風景が浮かぶ良い句です。

冬霧の中より少年現れる

何だか幻想的でいいですね…うまいな～

健さんの句はどれも季語をうまく使われていて

とても良く詠まれています。お上手になられましたね～

暖冬暖冬と言っていましたが、ここに来て寒い日が続いています。

でも、新年を迎えれば、春はすぐそこ…お風邪などひかれませんように。

ひとつまたひとつ煩惱除夜過ぐる

アーモンドクッキーの香や春隣

ゆうこ



次の兼題は春の花一切 春雑詠です。投句お待ちしております。